

令和３年度第２回小牧市青年の家運営委員会 議事要旨

【日 時】 令和３年１１月１０日（水）

午前１０時３０分～午前１１時１５分

【会 場】 小牧市青年の家 講義室

【出席者】 林（千）委員、橋本委員、名和委員、林（義）委員、船橋（鐸）委員

【事務局】 鍛冶屋こども未来部長、櫻井こども未来部次長、伊藤課長、若林係長、武田指導員、荒川
（こまき市民文化財団）坂本マネージャー、長江主任、清田

【傍聴者】 なし

【議 題】（１） 令和３年度小牧市青年の家事業中間報告について
（２） 創垂館の今後の利活用について
（３） その他

【会議内容】

１ こども未来部長あいさつ

小牧市青年の家は、心身ともに健全な青少年の育成を図るための施設として、小牧山の自然に囲まれた好立地、宿泊のできる公共施設という特徴を活かして、各種事業を展開しております。

そして、先ほど運営委員の皆様に見学いただきました創垂館につきましては、多くの皆様に「創垂館」「復元的工事」について、ご理解いただくための機会として、１０月１６日、１７日には、現場見学会を実施させていただくなど、創垂館保存修理工事終了後の利活用に向け、検討を進めているところでございます。

本日は、令和３年度第２回目の青年の家運営委員会ということで、「創垂館の今後の利活用について」を議題とさせていただきます。

皆様方の忌憚のないご意見を頂戴し、今後の施設運営に活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

２ 議題

（１） 令和３年度小牧市青年の家事業中間報告について
（事務局）

資料２にもとづいて説明。

以下のとおり、意見があった。

（林（義）委員長）

講師はどのように選出しているのか。

（事務局）

年度ごとにこまき市民文化財団が発行している生涯学習市民講師名簿から選出している。

（林（千）委員）

青年の家のイベントについては市民限定か。

（事務局）

市民限定である。

（林（義）委員長）

瓦づくり体験は今までやったことのない取り組みでとても良いと思うが、イベントを開催していることを知らなかった。

イベントをどのように周知していくかというのは、多くの団体でも課題となっているが、非常に難しい点である。

（事務局）

瓦づくり体験については、現場見学会と同日で、市民まっりの日程に合わせて開催を計画していた。

市民まっりが中止となったこともあり、広報、ホームページ等での PR となってしまう、周知が足りなかった点が反省点である。

また、青年の家の事業については、小学校各クラスに 1 枚チラシを設置してもらっている。ホームページにおいても、イベントの参加者募集の記事を掲載しているが、周知方法については課題となっている。

（船橋（鐸）委員）

ボーイスカウトのイベントについても周知については苦労している。

イベントによっては応募者が定員よりも上回ってしまうこともあり、定員の人数を集めるというのは非常に難しい。

広報では多くの人に周知することはできないと思う。

また、チラシについてもクラスに1枚では、参加者が集まらないと思うが、全員に配るとなるとコストの面もあり難しい。

（名和委員）

広報やホームページに掲載して実際どれくらいの人数が見ているのか。そもそもホームページは興味のある人しか検索しないので、多くの人に周知するのは難しい。

青年会議所ではチラシに QR コードを掲載して、人数に達したら募集を締め切るなどしている。

（２）創垂館の今後の利活用について

（事務局）

資料3、4にもとづいて説明。

以下のとおり、質疑応答があった。

（船橋（鐸）委員）

宿泊を行うとなると青年の家だけだと部屋が足りないのでは、創垂館も使わせてもらえないか。

（事務局）

夜間利用、貸出は管理上の問題等があり、難しい。

（橋本委員）

防犯面において、青年の家と創垂館をひとまとめとして、青年の家の職員に管理してもらった方が良くと思う。

（事務局）

今後、青年の家と連携をとりながら管理していけるよう、意見として承る。

(3) その他

(橋本委員)

創垂館オープンの際に、茶道や華道ができれば、記念になると思う。
お披露目のイベントができれば、創垂館の知名度が上がると思う。

(事務局)

内覧会等で、多くの方々に創垂館を知ってもらいたい。
なお、オープンの時期については調整中である。

3 その他

今後の予定について、第3回青年の家運営委員会を年度末に予定している。日程については決まり次第、ご連絡させていただく。